

3 東アジアと倭

今回の学習内容はこう理解せよ！  
ここでは、ヤマト政権成立の外的要因として、当時の東アジア情勢に着目する。東アジアの状況、ヤマト政権が東アジアと交流を持った目的を押さえよう。

知識を整理

◆東アジアとの関わり

時期	出来事	出典	中国	朝鮮
紀元前1世紀頃	朝鮮半島の楽浪郡へ遣使	『漢書』地理志	前漢	高句麗
1世紀半ば	奴国王が後漢へ遣使 「漢委奴国王」の印綬を受けたとされる	『後漢書』東夷伝	後漢	高句麗
3世紀後半	卑弥呼が魏へ遣使 「親魏倭王」の称号を得る	『魏志』倭人伝	魏・呉・蜀	高句麗 馬韓・辰韓 弁韓
4世紀末	倭と高句麗が交戦	好太王碑		高句麗・百済 新羅・加羅
5世紀初め～	倭の五王の遣使	『宋書』倭国伝	南朝（宋など） 北朝（北魏など）	高句麗・百済 新羅・加羅

◆倭の五王

5世紀初めから約1世紀の間に中国の南朝に遣使した5人の王（<sup>さん</sup>讀・<sup>ちん</sup>珍・<sup>せい</sup>済・<sup>こう</sup>興・<sup>ぶ</sup>武）  
＝「倭の五王」

▶遣使の背景

●東アジア情勢

中国＝南北朝時代

朝鮮半島＝4世紀：①が朝鮮半島北部を統一

百済・新羅がおこり、国家を形成

4世紀後半：南部への勢力拡大をめざして、①が新羅や百済を圧迫

●ヤマト政権の状況

鉄資源を求めて朝鮮半島に進出、百済や②地方と結びつく

4世紀後半：南部進出を進める高句麗と交戦

↓  
その後、朝鮮半島から撤退

↓  
倭の五王は中国の南朝に朝貢することで、朝鮮半島南部における外交・軍事上の立場を優位にすることを目論んだ。